• ASHIYA HOSPITAL PRESS •　2025.1

HOPE plus

［市立芦屋病院だより］

No.51

事業管理者 新年の挨拶

昭和百年を迎えて

市立芦屋病院 事業管理者 佐治（さじ） 文隆（ふみたか）

新年おめでとうございます。

今年は昭和100年にあたります。物心がついたのが第二次世界大戦後の私には戦中の記憶は無く、社会インフラの整わない戦後の貧しい時代の思い出が残っています。小学校では平和教育を叩き込まれ、中学・高校は受験勉強に追われましたが、それでも「努力すれば報われる」時代ではありました。戦争の無い状態が80年も続き、平和を享受できたのは幸せと言うべきでしょう。この間GDPはウナギ登りに上昇し、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」などと嘯いていましたが、その後の凋落ぶりはご覧の通りです。予測されていた人口減に目を瞑り、目先の利益を追求した結果が、国力低下を招き、今のような閉塞感を生み出しました。昨秋の衆議院選挙の結果生まれた新内閣には、しっかりと国政を舵取りして、「生まれて良かった国、住んで良かった日本」といえるように望みます。

昨年元日早々に発生した地震で大きな被害を受けた能登半島が、9月に線状降水帯による豪雨に見舞われ再度の被害を受けました。ただでさえ限界集落の多い過疎地が悲惨な状況に陥りました。まさかの二重被害に「一寸先は闇」を実感しました。日本列島各地で、地震・洪水・土石流や気候変動に伴う猛暑被害が報告され、南海トラフ地震警報まで発令されて、騒然とした1年間でした。各種の災害発生に備えて、芦屋病院ではBCP（事業継続計画）を策定し、芦屋市のセーフティ・ネットの一翼を果たしてまいります。

昨年総務省が発表した2023年度の公立病院事業（全国681病院）は、前年度の1996億円の黒字から一転して2055億円の赤字になりました。国からのコロナ補助金の減少に加えて職員給与引き上げや薬剤の値上がりが直撃しました。芦屋病院においても例外ではありませんでした。諸物価・人件費の上昇は続いており、診療報酬は厳しい改定を繰り返しています。市民や地域住民の健康保持こそ、平和とともにしあわせの源と考え、良質の医療の提供に邁進致したいと存じます。ご支援、ご協力をお願いいたします。

今年の干支は巳で、動物で表すと「蛇（ヘビ）」です。蛇は脱皮を繰り返すことから「復活・再生」を意味し、縁起が良いとされます。また「巳」は草木の成長が極限に達して、次の生命が宿される時期とも解釈されています。芦屋病院にとっても、本年が「復活・再生」元年であることを祈念いたします。

ボールニシキヘビ（Ball Python）

消化器内科の紹介

消化器内科 部長　中水流（なかずる） 正一（しょういち）

消化器内科は、上部消化管（食道・胃・十二指腸）、下部消化管（小腸・大腸）、肝臓、胆道及び、膵臓疾患に対する診断と治療をおこなっています。5名の常勤医と2名の非常勤医が消化器内科の診療に従事しており、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会等の認定医あるいは専門医の資格を有し、当院はこれらの学会の指導施設にも認定されています。当科では、（1）内視鏡治療、（2）肝疾患診療、（3）消化器癌に対する薬物療法を3つの柱としています。治療方針決定に際しては、患者さんと主治医が医学情報のほか、価値観や生活の事など個人的・社会的な情報についても共有した上で治療方針を話し合い、最終的な治療方針を決定しています。

消化管癌の早期発見・早期治療を重視しており、苦痛を軽減するために経鼻内視鏡検査や鎮静薬を用いた上部消化管内視鏡検査及び、大腸内視鏡検査をおこなっています。内視鏡治療は、食道・胃・大腸の早期消化管癌に対する粘膜下層剥離術（ESD）を積極的におこなっています。そのほかにも内視鏡的止血術、消化管ステント留置術、内視鏡的胆管結石摘出術や胆管ステント留置術は緊急例を含め多数おこなっています。また、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）をはじめとする指定難病の診断と治療もしています。

当科には日本肝臓学会肝臓専門医が3名（うち2名は指導医）、肝炎医療コーディネーターが1名在籍しています。肝疾患については、肝癌、B型肝炎やC型肝炎などのウイルス性肝疾患、脂肪性肝疾患、自己免疫肝炎、原発性胆汁性胆管炎等の診断と治療をおこなっています。病態の把握と適切な治療方針の決定のために、超音波装置を用いた非侵襲的肝硬度測定もおこなっています。

【下段】中　央／竹田副病院長　右／中水流消化器内科部長
左／臼井総合内科部長
【上段】右／瀬戸医長　左／藤井副医長

消化管癌（食道癌・胃癌・大腸癌等）、膵癌、胆道癌、肝細胞癌に対する薬物療法もおこなっています。高齢者では、生理学的な変化による臓器・身体機能低下、多病・多剤内服、社会的機能低下など多様な患者背景が生じており、これらのリスクを把握したうえで、薬物療法の適応を判断しています。

手術が治療選択肢となる場合には、外科と消化器内科のカンファレンスで最適な治療法を検討しています。また、緊急性の高い症例については迅速に外科と連携し、対応しています。消化器疾患でお困りの際はお気軽に受診してください。

新任Drのご紹介

産婦人科

婦人科腫瘍学、腫瘍免疫学、生殖免疫学

上浦（かみうら） 祥司（しょうじ）

先生から一言！

本年1月より産婦人科部長に着任しました、上浦祥司です。ちょっと歳はいっていますが、まだまだ当人は若い気でおります。これまで26年間大阪国際がんセンターで培ってまいりました婦人科腫瘍の医療を芦屋市民の皆さんに役立てるべく、若い先生方の協力を仰ぎつつ、ノウハウを伝授出来ればと思います。ご不明な点や心配事など、お尋ねいただければ丁寧に対応させていただきますので、気楽にお声がけください。

新任Drのご紹介

麻酔科

手術麻酔

佐野（さの） もえ

先生から一言！

1月より赴任いたしました。地域の皆さんにより良い周術期管理を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

消化器センターの紹介

外来看護師長　池田（いけだ） 万里子（まりこ）

患者さんのために安全・安楽な内視鏡看護の提供を目指して

当院の消化器センターでは、内視鏡を用いた検査や治療を年間約2,000件実施しています。主な検査は上部内視鏡検査（胃カメラ）、下部内視鏡検査（大腸カメラ）、カプセル内視鏡検査（カプセル状の内視鏡を用いて小腸を観察）などです。治療では胃や大腸にできた腫瘍の切除や、胆石などが原因で起きた炎症を軽減させる処置などをおこなっています。また、誤って飲み込んだ異物の除去や、胃や大腸からの出血を止めるなど、緊急を要する処置にも対応しています。

内視鏡の検査や治療には、絶食や下剤の使用が必要になるなど、お身体の負担を伴うことがあるため、不安や緊張を抱える方も多いと思われます。そのため事前に受けていただく検査や治療の流れについてわかりやすく説明するとともに、検査中もリラックスしていただけるよう、常にお声がけするように努めています。鎮静剤を使用し、うとうとした状態でおこなう検査は、「内視鏡検査を楽に受けることができた」と大変ご好評をいただいています。

消化器センター　看護師

日々進化する内視鏡検査や治療に対応するため、消化器センターの看護師は、専門学会をはじめ様々な研修会に参加し、知識や技術の習得に努めています。また、日本消化器内視鏡学会が認定する消化器内視鏡技師の資格を積極的に取得しています。今後も医師やコメディカルスタッフと協力し、質の高い医療、看護が提供できるよう努力してまいります。

リカバリーチェア

検査室

2024年度下半期　芦屋病院公開講座のご案内

〈時間〉午後2時～3時30分　〈定員〉90人　〈受講〉200円（1回）

日　時	場　所	内　容	講　師
2005年 1月11日（土）	別館2階 音楽室	作業療法を知る ～健康な生活のために明日からできること～	リハビリテーション科　作業療法士 錦古里 淑・樽岡 愛・梶田 明希
2005年 2月 8日（土）		貧血の症状と対処方法について	血液内科、腫瘍内科 安見 正人 医師 がん化学療法看護認定看護師 吉田 由美子
2005年 3月 8日（土）		骨粗鬆症について	整形外科 石川 直輝 医師

■ **直接会場にお越しください。** ※感染症の影響や天候不良に伴い、講座を中止する可能性がありますのでご確認をお願いします。

■ **問い合わせ先：芦屋市立公民館 〒659-0068 業平町8-24　TEL:0797-35-0700**

※401室が改修工事のため会場が変更となっています。

事業管理者のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者　佐治文隆（さじ ふみたか）

2025年問題

コンピューターの「2025年問題」をご存知ですか。2025年は昭和100年にあたり、元号「昭和」を使っているパソコンのプログラムでは昭和100年を昭和0年と誤認識するのではないかと懸念されました。元号による年表記が一般的な公文書などでは、これまで元号が変わった時に抜本的改修を行わず、昭和のまま年数カウントを継続して、印刷や表示するプログラムだけを修正し新元号に対応させる方法が採られてきました。その結果「年数処理に起因するシステム障害」が起こり得ました。この問題は日本特有の現象であるためあまり知られていませんでしたが、業界では危惧されていました。

この話題が耳に入った時に「2000年（Y2K）問題」がデジャブのように蘇りました。コンピューターシステムをはじめから西暦4桁にしておけばよかったのですが、データ容量節約のために下2桁だけで扱っていたため、2000年になった時「00年」となり、「1900年」とみなして誤動作が起こるといわれました。多くの会社では誤作動に備えてエンジニアが泊まり込みました。深夜運転するJRや私鉄各社はすべての列車を最寄駅に停車させました。航空機も然りです。当時勤務していた大阪府立成人病センター（現大阪国際がんセンター）でも幹部職員が大晦日から元旦にかけて泊まり込みました。オーダリングシステム（電子カルテシステムは未導入）やコンピューター搭載医療機器の不具合発生に備えて、コンピューターに素人の私も世紀末を病院で過ごす羽目になりました。結果的に大きな混乱やトラブルがなかったのは、今回の「2025年問題」同様です。その影には膨大なプログラムを変更した「蛇の道は蛇」のプロフェッショナル達の尽力が功を奏したのでしょう。

さらにIT業界では「2025年の崖」と言う言葉が注目されています。「2025年の崖」とは多くの企業の業務で使われている既存のITシステムが複雑化・老朽化・肥大化・ブラックボックス化し、時代に合わせたビジネスモデルで使いづらくなり、国際競争力を失い、経済停滞になってしまう問題です。2018年に経済産業省がまとめたレポートで問題提起しました。多くの企業では長い期間をかけて、それぞれの部署・部門が場当たり的にカスタマイズを重ねてきた結果、伏魔殿状態（カッコよく言えばレガシーシステム）となり、情報共有ができなくなって莫大な経済損失を生むといわれます。レガシーシステムを構築したエンジニアが第一線から退く2025年が、システム刷新最後のチャンスと言われる所以です。

社会福祉の分野の「2025年問題」は、団塊の世代が後期高齢者になり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という超高齢社会の到来です。医療・介護需要の増大が予測される一方で、従事する若年労働者の減少も相俟って大きな社会問題になると予測されます。働き方改革に伴う医療従事者の不足、医師の地域偏在・診療科偏在が拍車をかけます。財政悪化の対策として、高齢者に対する健康保険料・介護保険料の増額、自己負担額の増加などが画策されていますが、効果は未定です。地域医療・介護を総合的に確保するため地域包括ケアシステムが発足していますが、今後はシステムの効率的運用が課題でしょう。とはいえ、私達の使命は安心で質の高い医療を提供することです。

今年は巳年です。ことわざに「藪医者の薬箱と蛇の足は見た者がない」（藪医者は患者にどんな薬を用いているのやらわかったものでない）とあります。いつまでも良医でありたいものです。　（2025.1.1）

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧ください。

市立芦屋病院 ご案内

交通案内

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から

タクシー	約7分
バス	約25分（JR芦屋駅、阪急芦屋川駅 のりば2番）
徒歩	約30分

※ 病院ネットワークバスもご利用ください　無料

市立芦屋病院の理念

〈病院理念〉
あい（愛）・しあわせ（幸福）・やさしさ（優しさ）

〈基本理念〉
芦屋市の中核病院として　地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し　最善の医療と癒しを提供します

日本医療機能評価機構 認定施設（3rd G：Ver. 2. 0 一般病院2）
市立芦屋病院
〒659-8502 芦屋市朝日ケ丘町39-1
TEL：0797-31-2156　FAX：0797-22-8822
H P：http://www.ashiya-hosp.com

編集・発行　広報推進委員会